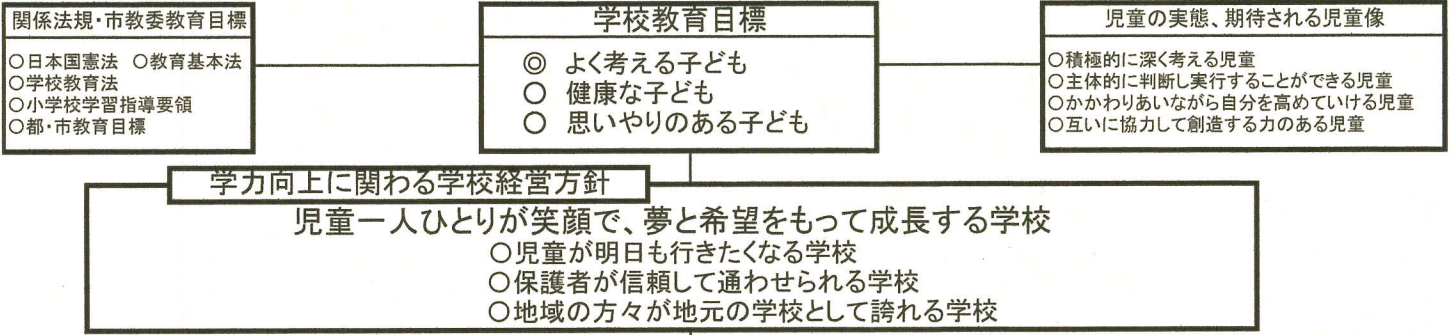


令和5年度 授業改善推進プラン 全体計画

鷹南学園三鷹市立東台小学校



教科指導の重点

- 必然性のある学び
 - ・導入と課題設定を工夫し、児童が主体的に学ぶ授業をつくる。
 - 一人ひとりに合わせた指導の工夫
 - ・生きて働く知識・技能を一人ひとりが獲得することを保証する授業。
 - 見方・考え方を働かせた探究型授業
 - ・思考力・判断力・表現力を育む。
 - ・自分の考えを「もつ」「深める」ための工夫。
 - 三鷹「学び」のスタンダード、鷹南スタンダードに基づいた学習規律の徹底
 - ・小中一貫の連続性のあるなかで、学習に向かう態度の向上を目指す。

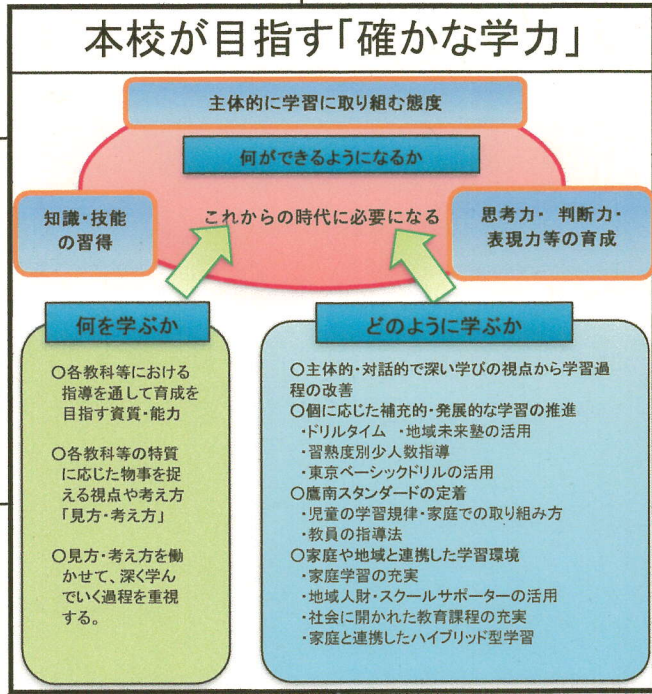
総合的な学習の時間で身に付ける「学力」の重点

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。

○探究的な学習過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成する。

○実社会や実生活の中から問いを見つけ、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する。

○探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。



道徳教育の指導の重点

- 「考え、議論する道徳」の授業を通して、自ら筋道を立てて考え、主体的に行動しようとする態度を養う。
- 思いやりの心をもち、他者と共によりよく生きるための道徳性を養う。

特別活動の指導の重点

- 児童の興味、関心に基づく活動を基盤に、計画から準備、実施にいたる一連の過程での創意を生かした活動を大切にしながら、児童の自主的、実践的態度を育てる。
- 児童の発達に応じた学級の活動を活発にし、児童相互の話し合いを基盤に、お互いの立場を尊敬する好ましい人間関係を育てる。
- 異年齢集団によるフレンズ活動を通し、豊かな人間関係を育てるとともに、各学年に相応しい自覚と自主性や指導力を育てる。
- 学習で身に付けた力を特別活動に生かすカリキュラムマネジメントを策定し、組織的に汎用性のある力を育てる。

進路指導の重点

- 児童一人ひとりが夢や希望をもって生き抜く力の育成に努める。
- 各学年でキャリア・アントレプレナーシップ教育を実施する。
- 小・中一貫教育校として、異学年交流、中学校プレ講座、部活動体験を行うなど、中学生と相互に学び合う機会を充実させる。
- 小1プロブレムや中1ギャップを軽減し、学校間の接続がスムーズになるように幼稚園、保育園児と1年生の授業体験をしたり、中学校の教師が乗り入れ授業を行ったりする活動を充実させる。

生活指導の重点

- 鷹南スタンダード(生活編)の「みそあじ言(身だしなみ・掃除・あいさつ・時間を守る・言葉遣い)」を「自律性を高める指導」とし、正しく判断して行動できる児童を育てる。また、小・中学校、家庭、地域の三者が連携しながら自己指導能力の育成を目指す。
- あいさつ・返事・廊下歩行の指導を徹底し、望ましい基本的生活習慣の確立を図る。
- 支援や配慮の必要な児童について共通理解し、校内委員会等を活用して適切に対応する。
- 「いじめは絶対に許さない」という姿勢を共有し、いじめの早期発見・対応を行う。また、幼・保・小及び小・中の引継ぎや校内での情報交換を毎週1回は行い、児童の心身の安定を図るとともに安心して学習できる環境を作る。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○「鷹南スタンダード(教員版)」による指導の共通化。 ○授業公開や研究授業、校内OJTにおける教員の学び合い。 ○算数少数指導や学習の個別化、東京ベシーックドリルの活用など、個に応じた指導の充実。 ○児童の実態に沿った補充的・発展的な学習の充実。 ○ICT教育の推進による効果的な学習内容の習得。 ○都・全国・市学力調査の結果分析・考察を生かした授業改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元指導計画を見直し、学習活動を効果的に実施。 ○東京ベシーックドリルの活用による個に応じた基礎・基本の定着、学力向上。 ○放課後に補充学習を行い、学力の確実な定着。また、地域未来塾を週1回設定し、補充的な学習に取り組む。 ○中学年、高学年で一部教科担任制を実施し、教員の専門性を生かした授業を展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学園研究を通じた各教科の専門性を高めるための授業研究、乗り入れ授業を生かした授業改善。 ○通常授業の公開による指導力向上。 ○鷹南学園の研究会を行い、小・中一貫教育の視点をもった指導法の実践をする。 ○学園の研究主題に迫るために、児童の変容を見取り、評価方法を明確にしていくことで、授業改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のねらいを明確にし、児童自身ができたか、分かったかどうかを評価できる指導。 ○授業実践を通して指導・評価計画を検証し、次時の指導への活用。 ○児童の励みとなるように肯定的な評価。 ○座席表を活用することで児童の実態を捉え、効果的な評価・支援の実践。 ○個人面談などで保護者に児童の現状と課題を明確に伝え、家庭学習を含めた連携の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートや保護者による評価、CS委員等関係者評価を教職員間で共有して教育の質の向上を目指す。 ○スクールサポーターやCS委員など地域の人材の積極的活用。 ○アレルギー対応研修など学んだことを家庭、地域にも発信し、共に学び連携を取る。 ○芝生や学校施設を有効に活用できるよう、地域諸団体・関係諸機関と連携して持続可能な管理体制を整備。
<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の推進やノート指導の徹底により、各教科の見方や考え方、学び方を身に付けさせる。 ○家庭学習の取り組み方、自主学習の仕方などを知らせる資料「家庭学習のすすめ」を保護者に配布し周知することを通して保護者と連携を取り、家庭学習の推進、学習習慣の確立。 				